



西知多総合病院だより

2018年
1-3月号

＜愛知県防災航空隊合同訓練の様子＞



地域完結型医療のすゝめ

事務局部長 岩堀良治

骨粗鬆症ってなあに？

副院長（整形外科） 伊藤 靖

私たちは栄養サポートチーム（NST）です 薬剤科 岡戸 洋

放射線科 ～地域医療への貢献～

放射線科 青山健治

今の流行りの救急受診とは？ ～インフルエンザのいろは～ 救急看護認定看護師 佐々木 亮

イベントを開催しました

お知らせコーナー

地域完結型医療のすゝめ

2025年問題とか、地域完結型医療とか、医療機能の分化など、医療に従事する方なら「そんなこと知っとるわ!」と言うでしょう。でも、そうでない方の中には「な〜にそれ?」と言われる方が結構いるのではないかと思います。

65歳以上人口の総人口に対する割合を高齢化率といい、高齢化率が7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」といいます。平成29年4月1日現在、東海市の高齢化率は21.5%、知多市の高齢化率は26.1%で、既に両市ともに超高齢社会に突入しています。

また、65歳から74歳の方を前期高齢者、75歳以上の方を後期高齢者とよんでいます。後期高齢者になると医療の必要度が非常に高くなり、高齢化が進むと医療費の増大につながります。昭和22年から24年に生まれたいわゆる団塊の世代の人口はたいへん多く、大きな病院が急性期から慢性期、重症から軽症まで、全ての病気やけがを治療する「病院完結型の医療」を続けると、団塊の世代の方々がすべて後期高齢者となる2025年には医療制度が破綻する。と危惧して国が打ち出したのが「地域完結型医療」です。

地域完結型医療は、患者さんが生活する地域の中で、病院や診療所などがそれぞれの医療機能を活かしながら役割を分担し、患者さんの病気やけがの状況に合わせて、地域の医療機関全体が連携して、切れ目のない医療を提供しているというものです。地域完結型医療では、かぜなどの日常的な病気、慢性疾患の投薬、軽いけがの治療などは身近な地域の「かかりつけ医」が受け持ち、専門的な治療や高度な検査、入院治療、救急医療は地域の中核病院が受け持ちます。



事務局部長 岩堀良治

急性期の治療が終了し病状が安定した患者さんは、リハビリを行う回復期病院、長期療養を行う慢性期病院、「かかりつけ医」となる診療所などの地域の医療機関で診療を継続していただきます。もちろん、再び病状が悪化すれば地域の中核病院が治療を引き受けます。なお、入院では、高度急性期病床、急性期病床、回復期病床、慢性期病床に医療機能を区分（分化）し、それぞれの医療機能の役割に特化する仕組みが作られています。

公立西知多総合病院は、高度急性期病床と急性期病床の医療機能を持ち、知多半島北部地域の中核病院の役割を担う病院です。

とはいうものの、公立西知多総合病院は、東海市民病院と知多市民病院を統合した「市民病院」でもあります。高齢の患者さんが診療科ごとに複数の「かかりつけ医」に通院するのもたいへんなことで、市民が必要な医療を受けやすくすることへの配慮が必要だと思います。

患者さんにとっては病院完結型医療の方が都合がいい、でも、地域の医療を守るためには地域完結型医療でなければ成り立たない。その辺が大きなジレンマとなっています。

平成30年度は医療、介護の同時制度改革が行われます。さて、どのような改正となるのでしょうか？

骨粗鬆症ってなあに？

昨年9月の市民公開講座「すばらしい腎生をあなたに」で好評だった、伊藤 靖副院長(整形外科)による講演「骨粗鬆症ってなあに？」を紙上再録しました。

骨強度が低下し骨折のリスクが増大

骨粗鬆症は骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる疾患です(2000年NIHコンセンサス会議)。

背中や腰が痛み、背が低くなる

骨粗鬆症は静かに進行し、症状が現れるのは更年期を過ぎてからです。背中や腰の痛み、背が低くなる原因も骨粗鬆症です(図1)。最も問題なのは転倒～骨折し寝たきりになる事です。



図1 骨粗鬆症の症状

骨量減と骨折を予防しましょう

骨粗鬆症・骨折の予防には早すぎるということはありません。40・50代になれば検査を受け始めて生活習慣を見直し、60代になったら自分の体力を過信せず、70・80代以降は住環境を整備して転倒を予防することが重要です(図2)。



図2 骨折予防は転倒予防



伊藤 靖 副院長(整形外科)



血圧を測るように、骨量も測りましょう

骨粗鬆症の診断と治療方針の決定は以下の3つの検査結果を基に総合的に判定されています。

- ①骨量測定器で骨密度を測定
- ②エックス線写真で骨の変形を判定
- ③血液、尿で骨の代謝を検査

これらの結果で以下に該当する方は薬による治療を開始すべきです(図3)。

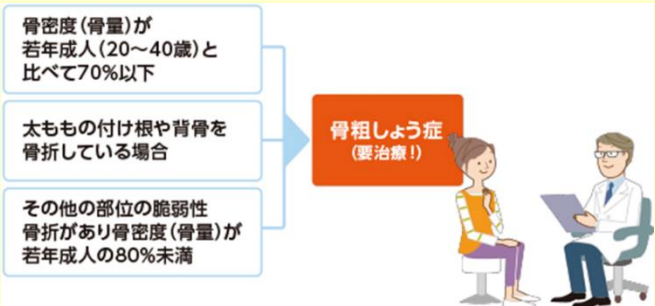


図3 要治療となるのは

※脆弱性骨折とは立った姿勢からの転倒、あるいはそれ以下の軽微な外力による骨折を言います。

治療方針によって使う薬がちがいます

薬の働き	薬の種類
骨吸収と骨形成のバランスを整える	カルシウム
	活性型ビタミンD3
骨吸収を抑える	ビスホスホネート
	サーム (SERM)
	女性ホルモン
	抗ランクル (RANKL) モノクローナル抗体
骨形成を促す	副甲状腺ホルモン

表1 様々な治療薬

骨を大切に健康寿命を延ばしましょう

骨は体や日常の活動を支える大切な器官です。骨粗鬆症を予防し、骨の健康を保つことは、健康寿命を延ばすことにもつながります。皆様の素晴らしい人生を期待しております。

私たちは栄養サポートチーム（NST）です

薬剤科 岡戸 洋

栄養サポートチームとは

患者さんが適切な栄養管理のもとで診療が行われるために、多職種で構成されたチームです。

1960年代にアメリカで始まり、日本国内でも多くの施設で稼働しています。



なぜ栄養管理が重要な？

患者さんは入院前も含めて健常人と比べると食事の摂取量が不十分であることが多いようです。一方で発熱や大きな外傷など身体的なストレスがかかっている状況ではより多くの栄養が必要であることが報告されています。肺炎などの感染症、床ずれの発症を抑え、治りをよくするためには十分なエネルギー量、タンパク質、脂質、ビタミン等が確保されていなければなりません。

入院患者さんの適切な栄養管理は良質な医療を提供する上で必要不可欠と言えます。

栄養サポートチームはどんなことをしているの？

◆患者さんの食事摂取量、体重の変化、栄養状態の指標となる血液データなどから、低栄養状態、あるいは低栄養になる恐れがある患者さんを抽出し、多職種で検討や回診を行います。

◆検討会では患者さんの入院前の生活や退院後の生活環境も鑑みて、患者さん個々の状況に最適な栄養管理の方法を検討しています。

◆食事内容や形態の工夫はもちろん、摂取が不十分な場合は患者さん個々に適した栄養補助食品を提案します。また、十分な食事摂取ができない場合は、点滴や経腸栄養などについても提案します。

◆回診では、食べやすい食事内容を患者さんと共に検討したり、患者さんの筋肉量や皮膚の状況（乾燥やむくみ、床ずれの徴候など）を確認したりしています。

～当院の栄養サポートチームの特徴～

（その１）医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなど11職種で構成されています。それぞれの専門知識と経験を活かし、週１回（病棟別３回に分け）検討や回診をしています。

（その２）看護師は、NST専門療法士である専従看護師、安全な食事摂取のための知識に長けた摂食・嚥下障害ケア認定看護師、床ずれの予防・治療に携わる皮膚・排泄ケア認定看護師、そして、患者さんの療養生活を支える病棟看護師が参加しています。

（その３）毎月院内勉強会を開催し、職員全体の栄養管理の知識と技術の向上に努めています。



放射線科 ～地域医療への貢献～



放射線科 科長 青山健治

スタッフ構成

診療放射線技師は、常勤24名 非常勤4名の計28名です。平成30年度には放射線治療開始準備のため3名増員されます。私たちは、患者さんの安全・安心を保証するために、専門の認定資格を併せ持ち豊富な知識と経験をもとに、放射線検査・放射線管理に臨んでいます。

部門紹介（概要と特色）

放射線科の診療部門では、X線写真の撮影、消化管造影検査、CT・MRI・核医学検査等のX線・γ線や磁気とコンピュータを利用した検査、また血管造影検査およびバルンカテーテルやステントを使った治療（IVR）なども医師・看護師・臨床工学技士とともにチーム医療を行っています。

画像から得られる情報から医師は診療方針を決定するため放射線科の画像診断の役割が重要になっています。放射線科では急速に進歩する医療技術に対応するため、最先端の画像診断機器を備え、装置が安全にそして安定して使用できるよう精度管理を行っております。患者さんの被曝線量の低減や身体的負担の軽減を心がけ、安全にそして診断価値の高い画像情報の提供に努めております。研修会や学術大会に参加し医療技術や知識を学び専門性を高め、医療従事者として資質の向上を目指し診療に貢献できるように取り組んでおります。

業務目標（取組み）

放射線科の今年度の取組みとして①設備・環境の整備に努める ②効率を上げるための業務改善をする ③教育・訓練を実施する ④経営改善を心がける ⑤接遇に努める ⑥医療安全・事故防止に努める ⑦感染予防に努める ⑧地域医療への貢献 ⑨地震・火災災害の対応 ⑩放射線治療装置導入の準備 の10項目を掲げております。

今回は、⑧地域医療への貢献についての取り組みにスポットを当ててみます。地域の医療を発展させるべく、高精度の医療機器の共同利用ということで地域の医療機関からの患者さんに安全で質の高い医療を提供しております。地域医療連携室を通して、近隣の医療機関からご依頼をいただいてCT/MRI/骨密度測定等を行っています。MRIに関しては検査所要時間の都合上、予約枠が少なくご不便をおかけしています。現在超高齢社会において急速に増加している骨粗鬆症の診断に、予約が柔軟な骨密度検査を使っていただければ幸いです。結果は骨密度測定については当日ご本人に、そしてCT/MRIについては放射線科医による読影レポートを5日以内に発送いたします。ご利用をお待ちしております。

今後の展望

今後も引き続き、市民の求める医療サービスの安定的な提供を行うために、医療の質を確保しつつ、地域住民に信頼されるよう患者中心の医療を実践していく所存であります。

より円滑な業務推進ができるよう職場環境を整えていきたいと思っております。



骨密度測定装置（DXA）

今の流行りの救急受診の仕方とは？ ～インフルエンザのいろは～



救急診療センター
救急看護認定看護師
佐々木 亮

○今の流行りの救急受診

新年を迎え、寒さも厳しい日々が続いていますが、救急でもインフルエンザでの受診が非常に増加しています。そこで今回はインフルエンザの受診方法についてご紹介したいと思います。

○インフルエンザにかかるとどんな症状が出るの？

38℃を超える発熱、寒気、関節痛、咳、鼻水、ノドの痛み、など。

○風邪とは何が違うの？

症状はほとんど同じです。違うのは**急激な体温上昇**。
インフルエンザは発熱するとすぐに38℃を超えてしまいます。

○実はすぐに診断できません・・・。

インフルエンザに感染後、ウイルスは8時間くらいで100個程度に増殖し、24時間後には100万個に増殖します！

急激に熱が出て、熱の出始めからの時間が短ければ、インフルエンザに感染していても診断できない！ということもあります。

一般的には**12時間**くらいすると検査で診断ができるようになり、**24時間程度**であれば診断の確実性が上がります。そのため、その頃に病院に来ていただくことをオススメします。



○病院受診時の注意点。咳エチケットが大切です！

冬の厳しい寒さの時期インフルエンザが流行しているため、人混みに行くとうつってしまう可能性があります。特に病院受診時は、その可能性が非常に高いです。

自分を守る意味でも、周りにうつさない意味でも**マスク**を着用するよう、ご協力をお願いします。

○インフルエンザの予防はコチラ！

インフルエンザウイルスは1回の咳やくしゃみで1.5mほど飛びます。なので**2m以上**離れておくことが大切です。

また、ドアノブや電車の吊革など人の手の触れる場所にもウイルスが存在している可能性があります。**手洗い**はしっかり行い、**うがい**も忘れずに！



病院イベントを開催しました

病院屋上ヘリポート夜間離着陸訓練を実施しました



11月21日に愛知県防災航空隊と協力し、大規模災害時の受け入れ体制の構築及び広域搬送要請等の連携強化を目的に合同訓練を実施しました。

当院から院長はじめ救急科医師、DMAT隊ら17名が参加し、日没後に航空隊員と模擬患者を搬送する訓練を実施しました。

病院機能評価を受審しました



10月18日・19日の2日間にわたり、日本医療機能評価機構が実施している病院機能評価を受審しました。

受審するにあたり、1年6カ月前から全職員が協力し、マニュアルの見直し、運用のチェック等行ってきました。当日は、当院で行っている患者中心の医療を評価者(サーベヤー)に説明し、評価を受けました。

「緩和ケア市民公開講座」を開催しました



11月4日(土)東海市立市民活動センターで「緩和ケア市民公開講座」を開催し、地域の医療関係者の方や近隣の市民の方、合わせて70名の方に参加していただきました。

今回で2回目となり、公立陶生病院の緩和ケア内科澤田憲朗主任部長をお招きし、「備えあれば憂い少し～自分らしく生きるために私たちが考えるべきことは？～」と題したご講演をいただきました。参加者の方々からも活発なご意見をいただき、緩和ケアを学ぶ機会となりました。

放射線治療施設の増築について

放射線治療施設等増築工事を平成29年9月から行い、平成31年度の開設を目指しています。

現在、増築工事に伴う救急車動線確保等の準備工事を実施しています。

工事中、入院・外来患者さん、来院者の方、近隣住民の皆様には長い期間ご迷惑をおかけしますが、騒音、振動等の低減に努めるとともに安全を確保し施工してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



平成29年12月の工事状況

日本DMAT隊員養成研修に参加しました

平成29年10月12日（木）～14日（土）の3日間にかけて、大阪医療センターで行われましたDMAT隊員養成研修を受講しました。

それにより医師1名、看護師2名、業務調整員（臨床工学技士、放射線技師）2名の合計5名が新たに日本DMAT隊員として登録され、2隊のDMAT隊を保有することになりました。

今後も大規模災害時に迅速に活動出来る体制の強化に努めて参ります。



<診療等のご案内>

○外来受付

8:30～11:00

（再診受付機は8:00から）

○面会時間

平日 14:00～20:00

土日祝日・年末年始

10:00～20:00

○休診日

土曜日、日曜日、祝日、

年末年始

（12月29日～1月3日）

～ 基本理念 ～

私たちは、知多半島医療圏の北西部地域における中核病院としての使命を果たすため、次のとおり基本理念を定めます。

- 1 地域の皆さんとともに育む、心のこもったあたたかい病院を目指します。
- 2 質の高い医療を提供する、信頼される病院を目指します。
- 3 地域医療の担い手として、安心して暮らせるまちづくりに貢献します。

～ 基本方針 ～

- 1 患者さんの生命と人権を尊重し、安心安全な医療を提供します。
- 2 地域の基幹病院として、救急医療と急性期医療の充実に努めます。
- 3 地域の医療機関や保健・福祉機関と連携し、地域住民の健康増進を図ります。
- 4 教育と研修により、医療技術の向上と人間性豊かな医療人の育成に努めます。
- 5 職員がやりがいを持ち、安心して働くことができる環境を整えます。
- 6 健全な病院経営に努めます。



公立西知多総合病院だより 第10号

2018年1月発行 編集:広報図書委員会 発行:公立西知多総合病院